

日時 令和6年11月28日(木)

午後7～9時

場所 松本市役所3階 第1応接室

～ 議事概要 ～

■会議事項

1 #11 イベント結果報告

- #11 イベントの実施概要は以下のとおり。
 - ・日時：令和6年9月22日(日) 9:30～15:00
 - ・会場：長野県林業総合センター 学習展示館ほか
 - ・内容：森林体験

2 森林長期ビジョン(案)について

- 「森林長期ビジョン」のタイトルについて、市民に親しみやすく、ビジョンの目的が明確に伝わるものが求められた。委員からは「森林と市民との関係の将来像」を強調する意見や、「GREEN FOREST」など市民の積極的な参加を促すタイトル案が提案された。
- このビジョンは林業の振興が主眼ではなく、森林と市民との関係を深めることに重点を置いている。林業に関係する取組みの強調は避けるべき。
- 33 ページ以降に示された具体的な取組み項目については、詳細な内容とその実施主体が現状では不均一に表現されていたため、調整が必要。特に「実施主体」の表現については、市民(団体)の関わり方に重点を置き、単なる支援者ではなく、積極的に関わっていく方向性を反映させることが求められる。
- 取組み内容には、すでに進行中のものと、将来にわたって実現するものが含まれ、これらを明確に区別する必要がある。また、市民の参加や協力を促す形で、具体的な行動がしやすい内容へと調整されるべき。

3 今後のスケジュール

- ビジョンの文書修正は、会議後の土日を利用して意見をメールで送ることになり、それをもとに最終案を10日までに作成することとなった。
- 市長への提出は3月以降となり、委員全員で市長に提出する形を取ることが提案された。
- パブコメの後に、議会審議で出た意見も合わせて修正を図ることとし、議会の意見は終了後に委員会に早急に共有することとした。
- パブコメを広く周知する方法として「広報まつもと」への掲載が提案されたが、広報への掲載は時間的に難しいことが分かったため、代替手段として、これまでのイベント参加者に連絡する方法や、松本市公式LINEを使った情報発信が検討された。

4 ビジョン実現に向けた推進体制について

- 市から、来年度以降の推進体制について説明。活動資金は現在、予算確保に向けた交渉が進行中。推進体制の構成は、運営委員や市内の活動団体、過去のフォーラム参加者などが関与する予定。年内に核となる組織を調整し、予算折衝を行う予定で、具体的には、委員会から代表者を選出し、その人物が推進体制を率いていく形を検討。
- 核となる組織については市役所外に新たな団体を設置し、その団体に市が支援する形を検討。初年度は組織構築のための活動が中心となり、活動を拡大させていく中で、最終的には市の支援を離れ独立した運営を目指す。
- ビジョンの策定が完了する前にオープンなイベントを行うことが難しく、年度内には時間がないため、12回目のイベントは実施しないことで決定。

議事録要約

1 開会

(市)

始める前に一言、話をさせていただきたい。今日は大変な雪の中、天気の悪いところをお集まりいただき感謝申し上げます。一点だけ皆様にお詫びを申しあげたい。内容としては、松本市には環境審議会が環境部の中にあり、環境審議会に諮る前にビジョンの内容について承認を頂いてから環境審議会に諮っていくというのが筋であったが、急遽現時点の最新版の長期ビジョンで説明することとなり、急遽環境審議会に諮らせてもらった。そのような経緯で、皆様にお諮りしてというところまでいかなかったことについて、大変申し訳ないと思っている。ご理解いただけると幸いである。環境審議会での質問や意見をまとめた資料を作成したため、見ていただきたい。環境審議会ではこちらの説明が十分できず、市民がつくる長期ビジョンだという発信がうまくできなかったことから、行政の通常の計画のような形で捉えている方もおり、いろんな質問が出ていた。パブコメもこれからやっていく中でそういった形のをいかに取り込むか、取り込める部分は取り込んでいという形になるかと思う。それでは会議に入りたいと思う。ここからは委員長に進行をお願いしたい。

(三木委員長)

私も今日午前中木曾で雪に見舞われ慌ててタイヤを替えたところで、冬になってきた。この会議もいよいよ大詰めということでよろしくをお願いしたい。それでは、会議事項をお手元の次第に従ってやっていこうと思う。まず、第11回目のイベントの開催結果ということで、簡単に説明していただきたい。

2 会議事項

(1) #11 イベント結果報告

(市)

※資料1の説明

(三木委員長)

資料を読んで質問はあるか。バームクーヘンを焼くのは大変好評で、森林の中でバームクーヘンを焼くだけですがごくお客さんと呼べるのではないかと思った。またお気づきのことがあれば後で質問頂いても構わない。ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

(2) 森林長期ビジョン（案）について

(三木委員長)

それでは次、森林長期ビジョンの案について検討していこうと思う。資料2の説明をお願いしたい。

(市)

前回の運営委員会から修正をさせていただいている。主には33ページ以降の5つのテーマに

基づいた実現のために取り組むこと、具体的な内容、実施主体を示した表を追加・整理させていただいた。今回ご協議いただきたいこととして、まず表紙のタイトルがある。まだ仮称ということで、以前にも議論がされていたかと思うが、確定をお願いしたい。それから、「運営委員会からのメッセージ」を仮で入れてあるが、委員長を中心に考えていただけるとありがたい。市長からのメッセージはこちらの方で今考えているところである。主には33ページ以降で整理させていただいた表の内容について協議をお願いしたい。

(三木委員長)

すぐパブコメとかが始まるのか。パブコメが始まるのは1月だが、市役所の中で会議とかで通すためには早々に内容自体を確定していかなければならないということで、パブコメの後でも修正できるが、ほぼ今回の会議の後1週間くらいで全部の文章をほぼ確定の形にしてしまわないといけないスケジュールになっている。それではまず簡単などころから言うと、運営委員会からのメッセージは、私がとりあえず書いておこうと思う。今仮で入っている文章も参考にしながら、私達のメッセージをここでうまく載せたい。その下に四角囲みで写真が空欄になっているが、最初は委員長の写真でどうかということと言われたが、委員長の写真を載せても仕方ないので、ぜひ委員の皆さんの集合写真を載せたい。皆さんで作ったものですから、そういう形にしたいかなと思う。これが一点目で、タイトルについては、表紙に「森林長期ビジョン」というのが仮に入っているが、これだといかにも行政が作った感じにも見えるし、一般市民に魅力のあるタイトルとは言いがたいところがある。ただ一方で、市民が見て何が書いてあるものなのかというのがはっきりした方がいいという点もある。市民が手に取ってみようと思うタイトルであると同時に、何が書いてあるのかははっきり分かるというタイトルやサブタイトルを作っていかなければいけない。まずこのあたりから議論していただいた方がいいかと思う。

(小山委員)

環境審議会からの森林ビジョンに対する意見をみると、主には「林業をどうするのかということを書け」ということが非常に多いけれども、実はその議論はこのビジョンの中ではどちらかといえば強調しないでおこうということになったかと思う。林業のビジョンではなく森林と市民を近づけるということが狙いであって、その一つの方法が林業かもしれないが、それは目玉ではなかったはずである。その誤解を解くため、タイトルと中身にその点を強調して入れていかなければいけない。そうであれば、この冊子をめくった最初に書いてある「森林と市民との関係の将来像」ということを謳うべきではないか。「森林長期ビジョン」と書かれてあると、環境審議会で説明を受けた方々は、「50年後の森はどうなっているのか?」「どういう補助金を入れてどうやって森を作っていくのか?」みたいなロードマップをイメージしているのかもしれない。我々は全くそんなことは考えていないということをきちんと謳っていかなければいけない。この環境審議会からの質問に対して「そういう意図はございません」ということを言うていくためには、「森林と市民との関係の将来像」を全面に打ち出したほうが良いのではないか。ビジョン全体を通して森林と市民との関係作りみたいなことだと思うが、そのような視点でタイトルを入れ替えていくのかなと思う。「森林と市民との関係の将来像」だと漢字が多いのでごく堅苦しくはあるが。

(三木委員長)

なるほど。確かに環境審議会からの意見を見ると、環境審議会が林業のこと言っていて、我々が林業のことを言っていないで、一見すると逆の感じもするが、仰ったように林業はもちろん森林と市民との関係の一部ではあるけれども、それをメインにした計画を書いているわけではない。

(市)

その点については、5つのテーマの施策の中に市が行う取組みや市民（団体）・事業者が行う取組みの3つに分けて丸を付けたわけであるが、この部分を環境審議会の委員の皆さんにあらかじめ見てもらうこともできなかつたような状況で、ビジョンの概要版で説明した中で委員の皆さんが意見を述べられたという経緯がある。小山委員が言われたように、これはそういう意図ではないということをもう少ししっかり説明しなければいけなかつたというところを感じている。今度環境審議会に対してフィードバックするわけであるが、その際にはその点をきちんと謳っていききたい。

(渡辺委員)

先ほど小山委員も仰っていた通り、この森林長期ビジョンというのは森林計画で森を作ることを中心として書かれているものではなく、私達と森をどう繋いでいこうとか、近づこうかというところが大切だという点に共感している。そのため、タイトルにはアルファベットで「GREEN FOREST」、その下に「私たちの森を私たちが作っていくために」という（案）を出させていただきたい。私が大事にしたい点はやはり森と人とが繋がるところで、その次のステップで市民がどうすればアクションを起こしてもらえるかというところである。近づくところはワンステップで、その次は一つ行動してみようというところを市民に伝えたいと思うので、私達の森を私達がどうしていこうかという、みんなで考えて行動していこうよというのを伝えられるタイトルにできたらいいと思う。なので、これが良いというよりは、これを軸として皆さんでいいアイデアが出たらいいと思う。

(小山委員)

今の意見を聞くと、「市民が」という主語をどこかで出すべきか。そうすると例えば、この「(仮称)松本市森林長期ビジョン」というのも、例えば「市民が考える松本市森林長期ビジョン」がサブタイトルなのかもしれない。もしくは「市民が考える松本市の森林の未来」みたいなものだと思う。要するにロードマップではなくゴールということを示した方が良いかもしれない。先ほど渡辺委員が言われたことも整理すると、「松本の森を私達が生かしていくために」という内容で、アクションプランに近い。ゴールのビジョンに向かってどうアクションを起こしていくんだというイメージを持たせた方がいいのかなというのは少し感じたところである。

(三木委員長)

そうではあるが、題名としてはかなり長い。

(小山委員)

まだ短くしなければいけないが、逆に「松本市」を切ってしまうか。「市民が森林に近づくために」など。1 ページの下半分の図はすごく綺麗にまとまっている。流れはこの通りである。1 ページに「松本市森林長期ビジョンとは」とあって、そこで何をやってきたのかというビジョン策定の経過が、すごくすっきり書かれている。現状の説明の中では「森林と市民との関係の将来像」を中心に上げたいということが全く伝わってない。タイトルと環境審議会の意見を整理していくと、すっきりするのかなという気がした。

(三木委員長)

短く分かりやすいタイトルについて、この場でずっと考えるわけにもいかないため、概ね森林と市民との関係をどういうふうにしてこれから作っていくのか、作り直すのか、発展させていくのか、これからはどういう関係性にしていくのかということを書いた内容であるという方向性で、その中に当然林業も含まれるという形でのタイトルにしていきたいと思う。また後で確定させようかと思うが、それでよいか。

(委員一同)

了解した。

(三木委員長)

資料 2 のビジョン案の前半部分は何回も見た内容で、あまり大きな変更はない。コラム等は付け加わるということになる。先ほど小山委員も言ったように 33 ページからの分担表の部分は、書き方がアバウトに書いてある項目もあれば、やたら詳しく書いてある項目もあって、結構濃淡がバラバラの状態になっている。それを統一するというのはある程度機械的にできると思われる。それから、実施主体のところにはとりあえず丸が付けてあるが、もう少し別の丸の付け方についてもここで調整していく必要があると思う。

(小山委員)

テーマ 1 やテーマ 3 は大きな枠組みで書いてあるのに対して、テーマ 4 は「この事業でこうやっていきます」というような細かい話になっており、どちらのトーンの方がいいのだろうかということである。

(三木委員長)

例えば 43 ページの表で、具体的な事業名まで書いてあるところが該当するか。

(小山委員)

これがテーマ 1、2、3 のトーンだと、事業名ではなく「松枯れ対策をやります」という大きな枠組みでの書き方になる。

(大田副委員長)

この表をすんなりと理解するのが難しかった。書かれている取組みは今やっていることなのか、それとも今後に期待して丸がついているのかというのがよく分からなかった。あともう一点、もし市民としてこの冊子を見た時に、現在行っている取組みなのであれば、実際に担当している部署などが書かれていても良いと思った。

(三木委員長)

この表の内容は、今実施している取組みはもちろん含まれるけれども、これから誰が主に取り組むのかということで理解している。松本市の担当部局を明確にするというのは、このビジョンの中では書かなくてもいいと思う。このビジョンはあくまでも委員である皆さんが作ったものなので、少なくとも「松本市はこれを担当してくださいよ」ということで、誰が担当するかは市役所の中で決めてもらって、我々が指定することではないという感じがする。「実施主体」という表記を何かもう少しこちらが意図する表現に変えたい。

(小山委員)

「市民（団体）」というところを「あなた」に変えるのはどうだろうか。市民が自分事にしようねというメッセージだと思うので、松本市がやるのか、事業者がやるのか、「あなた」がやるのかの3つでいいのではないか。

今やっていることで十分だったら、「今やっている取組みをそのまま推進します」でいいと思う。全部が全部今実施できていないではなく、「着実に進んでいるからこのまま継続することが大事です」というのも当然あるだろう。松枯れ対策などは正にこれに当てはまるだろう。

「今やっている取組みは着実に進めていきます」ということだと思うので、松枯れ対策は新しく何かをやるのかというところではなく、「現在進めている取組みを着実に実行していきます」という一言があると、現在やっている取組みはそのように書き換えてしまうと、「今やっていることがそのまま着実に進むんだね」という理解になると思う。今取り組んでいないことについては、これから一生懸命考えていかなければいけないから、多少具体性に欠ける内容になっても仕方ない。具体的な取組みのアイデアについては市民で出しましょうということで最後に落としこんでいく。

(三木委員長)

表のタイトルを「実現のために取り組むこと」としてあえて全部統一せず、「実現のために取り組むこと」という部分もあれば、「現在取り組んでいること」という部分もあって良いということか。

(小山委員)

テーマごとに取組みのトーンは異なってくる。例えば、33ページの「テーマ1：市民と森林がふれあう機会をつくる」の「(1) ふれあえる里山の森を増やす」は、該当する取組みを今は実施していないため、これからまだまだ充実させなければいけないということになる。一方、松枯れ対策に関しては今までずっと続けてきており、現状でも頑張っているの、このまま着

実に推進していきましょうということになる。

(三木委員長)

取組み内容について細かく書けるところと細かく書けないところ、あるいは来年からできることと、もうちょっとかかるということいろいろ混ざっている。だから、当然精度が大分違って来る。また、時間軸もばらついている。つまり、取組み内容の精度や時間軸をあえて統一するのではなくて、これから実現のために取り組むことと現在すでに取り組んでいることをはっきり分けて、実現のために取り組むことはややアバウトで、現在取り組んでいることは詳しくというような2種類の表に整理していけばよいのではないだろうか。

(小山委員)

もしかすると今はとてもできないけれど、時間を置けばできることもあるのかなと思う。例えば、40ページ一番下に「観光拠点周辺を重点的に森林空間の創出と整備について検討」とあるが、これは多分、1~2年の事業ではなくてすごく未来の話であるため、50年のビジョン対象期間の中で40年後に取り組んでも良いと思う。時間軸で言えば、現在取り組んでいること、実現のために数年先に取り組むこと、最終的に少し先の未来で「こういうこともできたらいいね」という3トーンになるかもしれない。

(環境アセスメントセンター)

現時点の取組み内容については主に市の方で入力していただいている、森林環境課の方ですすでに取り組んでいる内容が充実しているところは確かにあると思われる。その範囲を少しはみ出した「将来こんなことやれたらいいな」という取組みが内容的に少し足りずバランスが取れていないかもしれない。逆に、細かく書かれている取組み内容は表現を柔らかくすればいいかもしれない。詳細に細かく書かれている取組み内容については、若干松本市の他の計画のような内容に近くなっているかもしれない。

(小山委員)

この取組み内容の書き方のトーンが環境審議会からの質問意見に繋がっていると思われる。「木材産業や森林産業に対してもっと手厚い政策を書け」という意見が出てくるのは、そのせいだと思われる。

(環境アセスメントセンター)

大切な点は、どういうことに取り組んでいきたいかを市民や関係者から吸い上げられるような仕組みを作ることであるとか、市民への環境学習にしっかり取り組んでいくこととか、あとは民有地のことなどで困っている人と対話をしていきますとか、そういった点をもう少し見やすくする工夫が必要なのだと思う。例えば、表の上に入る文章でそういった点を記載していくのが良いのかもしれない。

(小山委員)

今言われたことはすごく大事だと思う。「常に市民に協力し市民との協働の中で」のようなキーワードを入れながら整理していくとよいのではないだろうか。

(環境アセスメントセンター)

あくまでも5つのテーマを達成するために、実現のために取り組むことの内容を整理していかなければならないが、現状でどこまでそうなっているのかというとまだ心許ないと思う。そういった視点でも、この場でご議論いただけるとありがたい。「実施主体」の欄についても、単に丸を付けるのではなくて、別の表現方法にするなど検討の余地があると思っている。

(小山委員)

例えば34をページ見ていただいて、「森とのふれあいが学べる機会の創出」というのは、実施主体は市民(団体)が丸ではなく二重丸で、市がそれを協力するということだと思う。「市街地にある木陰スポットの把握や今後の設置場所の検討、整備」というのは、市だけに丸がついているが、市民から意見が言えるようにするというような形にするとか。「市で勝手にやるから私は知らない」というのではなくて、主体的に関わるのか意見が言えるようにするのか、関係性を高めるという意味では、どのような形であるにせよ、かなりの取組みに市民が関わるのではないか。仕事をしてくれるのが市なのか、市が支援してくれるのか、市には全部丸がつくと思うが、市が全部やって市民は参加者になってしまうという構図は避けたい。多分市民は色々な形でサポーターとして全部関わりなさいよということではないか。補助事業とか市民が関われない取組みは別として、それ以外はサポーターとしては市民が全部関わって、「声を上げる」という関わり方があっても良いかもしれない。実施主体を厳密にすればするほど、市民目線ではなくなるような気がする。

(三木委員長)

例えば書き方について、39ページに「薪ストーブ及びペレットストーブを購入する経費に対し補助金を交付する」と書いてあるから、交付するなら松本市という話になる。けれども、市民や事業者が購入するのだから、文章としては「薪ストーブやペレットストーブの購入を検討する。市はそれに対して補助する」という書き方になるのだと思う。そうすると、松本市はもちろん補助しなければいけないから丸が付いているわけだが、市民や事業者も検討するのだから丸が付く。例えばこういった文章の工夫をする必要があると思う。ただ、短い時間で変更するのは難しいかもしれない。

(小山委員)

難しいことは分かるが、できるだけ「市民が」を入れたい。

(三木委員長)

「実施主体」と書くと実施しない人は丸がつかない感じになるので、例えば「主に関わる人」といった書き方はどうだろうか。関わり方は色々あって、市民は「自分の家で使ってみようかな」という形で考えるのも関わり方だし、市は主に事業を実施したり補助したりするという

のが関わり方だし、事業者は事業をやるというのが関わり方なので、「関わる人」という書き方が適当かもしれない。そうすると、丸とか二重丸とか三角で関わり方の度合いが表せるのではないか。主要テーマが「森林と市民との関係の将来像」なので、そこに関わる人ということになる。

今のところ 5 章の基本施策に話が集中しているが、それ以外に調整しておくべきところがあれば話し合っておきたい。コラム欄は結構スペースを空けてあるため、ここにどういう内容を誰が書くのかっていう点を早急に決めなければいけない。森林に何かしら関心がある市民がこのビジョンを見ると想定すると、プラスの意味での関心もあるし、不安とか、どうしていいのかわからないという関心の形もあるので、いずれの場合も市役所に連絡してみようという書きぶりにはしてはどうかと思う。

(渡辺委員)

コラム 1, 2, 3, 4 とあるが、ページは一つにまとめないでバラバラに設定する感じか。

(小山委員)

空きスペースに目休めで入れることになるのではないか。

(三木委員長)

ただ、本文との関連性を考慮して、例えば本文で松枯れの内容が書いてある前後に松枯れのコラムを入れるといったようにしたい。完成版にならないとどのぐらいの空きスペースが出来るのか分かりにくいものの、コラムは本文ではないため、あまりたくさんスペースを割くのは相応しくないとと思われる。他に意見はないか。

(大田副委員長)

「6. 将来像をふまえた松本市の未来の森林とは」で、この表題から内容を理解しにくい。単純に、エリアごとに考えたということが伝わる方がいいのではないか。松本市を里山・奥山・市街地で区分した時に分かりやすい構成の方が良い。52 ページの 2 つの図について、前のページにも同じような図があるので、断面図の方を先に配置してもらおう方が理解しやすい。

(小山委員)

タイトルについては、「6. 松本市の未来の森林」で良いのかもしれない。「将来像をふまえた」を入れると重ね言葉になっている。それと、未来の松本の森ってどんな森ってイメージした時に、51 ページの「松本市の地域区分」の図と 52 ページの「松本市の標高区分」の図は、補足資料的に一番後ろに持って行っていいのではないか。

(三木委員長)

タイトルは、「未来の松本市の森林」のような感じで良いと思う。また、ここで採用されているのは地域区分ではなくて標高区分であるため、地域区分の図は何か別の項目で扱っても良いのかもしれない。

(環境アセスメントセンター)

51 ページの「松本市の地域区分」の図は松本市の現状を表していて、これも踏まえて、松本市の未来の森林の扱い方を考えていくと、奥山、里山、市街地では目指していく姿や取り組んでいく中身は違うという構成が分かりやすいのではないかと考え、このような構成に至った。6 章の表題については、「4. 森林と市民との関係の将来像」から繋がっているということを伝える意図がある。4 章を踏まえたうえで、松本市の未来の森林のあり方を整理していくなら、標高区分ごとに整理するのが分かりやすいと考えた。ただ、4 章から少し離れており、読み手にはその意図が少し伝わりにくいかもしれない。

(小山委員)

4 章をふまえて、5 章では「将来像を達成するための基本施策」と謳っていることから、再度 6 章で「将来像」を繰り返さなくても良いのではないだろうか。

(三木委員長)

そうすると、7 章は「将来像の達成のための推進体制」となっていて、6 章だけ「将来像」が抜け落ちることになる。

(環境アセスメントセンター)

ビジョンのタイトル自体も「森林と市民との関係の将来像」にしたかったところはある。

(小山委員)

もしかしたら、これだけ多く出てくる「森林と市民との関係の将来像」がタイトルかもしれない。そうすると、ビジョンの中では「4. 森林と市民との関係の将来像」がメインということになるが、一番分かり易い図が 5 章にあるため、5 章に目が行きがちになる。

(三木委員長)

分かりやすい断面図は 4 章に移してもらっても良いかもしれない。また、章のタイトルについては分かりやすくなるよう調整したい。「将来像」というフレーズをあえて重ねるというやり方もあると思う。ただそうすると、「1. 松本市森林長期ビジョンとは」だけ宙に浮くような形になってしまうので、うまく考えないといけない。

(小山委員)

例えば、「この冊子で目指すもの」というふうに変えれば良いかもしれない。

(三木委員長)

他には。

(渡辺委員)

2点あり、1つ目は長期ビジョンの冊子を手にとってもらう人がどうやったら読みやすいか、何か困りごととかモヤモヤしていることがあった時に「このページを開いたら何かヒントが載っていそう」と思えたら、読んでもらいやすいのではないかと。どこに掲載するか分からないが、比較的最初の方に掲載欄を作れば分かりやすいと思う。また同じ欄の最後に、これから関わってくれるメンバー募集についてもアピールできると思う。2つ目は、せっかくこの会議でイベントやフォーラムで市民の意見を集めたり、アンケートを行ったりしているので、それらから市民の意見をこうやってまとめましたっていうのが分かるように、一番後ろではなく前の方に載せた方がいいのではないかと。せっかく自由記述欄でもたくさん想いを込めて下さった貴重な市民の想いなので、そこをもったいなくないようにこの森林長期ビジョンの冊子の中にきちんと反映しているということ、もう少し強く出せたらいいと思う。

(三木委員長)

1つ目は、目次の裏のページが空白になっているので、そこに対策の提示のようなことは書けると思う。掲載する項目に関しては精査する必要があるが、目次の裏のページだと誘導しやすいのではないだろうか。2つ目は、アンケートの内容を細かく書くと本文が長くなるという副作用がある。今回本文は短くするという方針で冊子を作成しているので、アンケートを踏まえていることはもう少し強調するにしても、本文では単刀直入に「松本市ではこれをやるんだ」というふうに書いた方が良く思う。

(環境アセスメントセンター)

アンケートを含めイベント、フォーラムで市民から出た意見や想いのエッセンスは「3. 松本市民の森林・林業に対する想い」に入れたつもりである。ただ、詳細に書くと本編のボリュームが増えてしまうため、詳しく知りたい方は資料編で全部確認できる構成にしてある。

(小山委員)

目立たせるという意味でいくと、15ページの「3. 松本市民の森林・林業に対する想い」の冒頭に、イベント、フォーラム、アンケート、聞き取りから市民の意見や想いを集めたことを端的に示す図を入れてはどうか。15～16ページの実施状況を示す表では少し伝わりにくいので、これらの表は3章の最後に参考資料的に載せると良いかもしれない。15ページの図で「これだけの意見をもらった」ということを示して、17～24ページの市民の意見や想いのまとめ部分に繋げるという構成だと伝わりやすいと思う。最初の15ページに多様なところから色々な方法で意見を集めたことを示す模式図を入れると、先程の渡辺委員からの要望も叶えられるのではないかと。

(渡辺委員)

私も同意見で、アンケートを全部載せたいという意味ではなく、先ほど小山委員が仰ってくださったように、「市民の声をこれだけ反映したんだよ」ということを受けて、「みんなでビジョンを作っていこうよ」というところを強調できたらいいなという視点からコメントさせていただいた。

(三木委員長)

15 ページの「(1) 森林・林業に対する市民の意見の聴取」という見出しについては、我々が主張したい内容を入れるなど、例えば「延べ〇人の市民の意見」みたいに書く方法もあるかと思う。

(小山委員)

「市民 1000 人の声を聞きました」のようにして、模式図で色々な人から聞いてこういう形にまとめましたっていう人数をリアルに出してしまって、内訳としてイベント〇人、フォーラム〇回、事業所へのアンケート〇社というふうに示すと、より伝わりやすいかもしれない。

(三木委員長)

本文の中で事あるごとに「アンケートなど実施して市民の意見を元に作った」ということを強調した方が良いだろう。松本市や我々委員が勝手に考えたものではなく、市民の意見がベースになっているということを、割としつこく書く必要があると思う。

環境審議会から頂いた意見や質問が 22 項目ほどあり、だいたいは林業寄りの内容だと思うが、ビジョンに反映できるのであれば反映したい。今読んでいると時間がないので、各自お帰りになった後にしっかり読んでいただいて意見を頂けるとありがたい。ほとんどの内容は解消できるのではないかと思う。

(3) 今後のスケジュール

(三木委員長)

あと 30 分ほどなので、資料 3 で今後のスケジュールを確認したい。

(市)

※資料 3 の説明

(三木委員長)

あまり時間がない感じになってきている。ビジョンの文書の修正について、この会議の後の土日のうちにメール等で意見をお送りいただきたい。それを受けて 10 日までに最終的な案にしていくというスケジュールでお願いしたい。それから、市長への提出式は 3 月よりも後のようだが、私個人としては委員全員で市長に渡すという形を取ればと思う。

(市)

直近の最新版で諮っていく形で進めていきたい。当然、庁議も含め議会についても色々な議員からの要望や意見が出てくるため、パブコメの意見も踏まえて最終的に作り上げたという形になるかと思う。

(渡辺委員)

もし可能であれば、1月14日の議会審議が終わった後に、議会の方でどんな意見が出たのかというのとパブコメに向けてこういうことを聞こうということで、議会とパブコメの間にもう1回話せる機会があったらいいと思うが、いかがか。

(三木委員長)

それは、議会とパブコメで諮る内容を変更するということか。

(渡辺委員)

議会の中でこういった意見が出たとか、パブコメにかけるにしても、どういう伝え方をすると答えやすいかを検討するような場を設けられればと思った。

(市)

パブコメについては、この案全体を公開し、それに対して意見を募っていく形になる。何か個別に質問を設定し、それに対して市民が意見を言うといった形ではない。

(小山委員)

パブコメに関しては、それぞれ何か聞きたいことを個別に設定するという仕組みでは本来ないので、定型的にやらざるを得ないという理解でいる。例えば、議会審議で出てきた意見を改善するとかではなく、あくまで庁議の中で固まって議会にかけたものと同等の内容を市民にもパブコメで公開するという流れなので、パブコメが終わった段階で議会からの意見も合わせて、「きてどうしましょう」というのを次の委員会でやればいいのかではないか。なので、議会審議とパブコメの間で委員会をやるのは意味がないと思う。

(三木委員長)

1月14日の議会からパブコメまでの間に内容を変更することは制度上できないため、1月14日の議会に出た意見をなるべく早く我々委員に共有していただくということか。また、パブコメの意見聴取については、我々委員から松本市民の知り合いの人に「こういうパブコメが出たんだけど、特にあなたにはこういう視点で読んで意見を出してほしい」というような形で頼むということではないかと思う。出来るとすればそんな感じか。

(渡辺委員)

議会の意見を委員の皆さんに共有いただくという形でお願いできたらと思う。あとは、パブコメでは広報も必要だなと思っている。何か簡単なポスターとかを作って、図書館とか公民館とか「パブコメしてるんだ」ということがより伝わる手段って何かあるか。「広報まつもと」とか。多分ホームページに載せるだけだと興味ある人しかパブコメしないと思うので、何かパブコメを知ってもらう手段として「広報まつもと」や我々が個別に声を掛けていく以外にあるか。

(市)

通常のパブコメの場合は、ホームページで周知をして市民から意見を頂く形を取っている。

これまで実際にパブコメを実施した例では、市民からの意見は少ないことが多い。パブコメを行う過程が形式上のルールになっているということもある。ただ、このビジョンについては、これまで市民に幅広く周知をして意見を聞いてきたという前提があるため、更にパブコメで多くの意見を出していただく必要性もそれほど高くないのではないかという認識である。また、広報に掲載するとしても、今からでは時間的に難しい。

(渡辺委員)

パブコメの載ったホームページのQRコードを「広報まつもと」のイベント欄などに載せるのも難しそうか。

(三木委員長)

1月広報の〆切はすでに過ぎており、2月の広報に載せてもすでにパブコメが終わっているのではないか。そのため、「広報まつもと」に掲載する以外の方法を考えた方が良いと思う。例えば、これまでフォーラムやイベントに参加していただいた方々の連絡先は把握しているので、その方々に周知することはできると思う。

(渡辺委員)

是非お願いしたい。他には松本市公式LINEで環境とかに興味関心ある人に一斉送信できるサービスがあると思うので、ご検討いただきたい。ラジオとかは難しいか。

(市)

行政情報をよく取り上げてくれるのはFM松本だが、1ヶ月ぐらい前に情報提供して放送が2ヶ月後とかになってくるので、ちょっと難しい。

(三木委員長)

あとは、ホームページに載せるのと同じような内容で、プレスリリースは出来るのではないか。

(渡辺委員)

市民タイムスや信濃毎日新聞などをお願いできたらと思う。

(4) ビジョン実現に向けた推進体制について

(三木委員長)

次に「(4) ビジョン実現に向けた推進体制」ということで、せっかくここまで作ってきたビジョンを着実に市民側で実行していくためには是非とも議論しなければいけないことかと思っている。事務局から説明をお願いしたい。

(市)

来年度以降の推進体制について、活動資金は今現在予算の確保に向けて折衝を行っている

ころである。推進体制の構成としては、運営委員の皆様や既に市内で取り組まれている活動団体の皆様、その他に過去まつフォレに参加された方等が携わっていただければと考えている。予算を確保するに当たっては、予算充当先となる組織、特に核になっていただける方を年内に調整できればと考えている。

松本市では2役に対する予算折衝が12月にあり、その時には具体的な推進体制を示すこととなっている。そこで、現在実際に森林で色々な活動をしている市内の団体に先日集まっただき、協力していただけるかどうか相談させてもらった。その場では即答が難しいということで、持ち帰って協議していただいているところである。また、この委員会の委員の皆様方がビジョンを作っている核であることから、この中からどなたか代表で引っ張っていただける方を出していただくと同時に、代表に選ばれなかった委員の皆様にもご協力いただき、組織の中に入って取組みを推進していただけるとありがたい。それに対して市は支援をしていくということになる。来年度は1年目ということもあり、連携・協力させてもらいながら、組織を着実に構築していきたいと考えている。

(三木委員長)

予算をきちんと出してもらうためには来年度からの具体的な推進体制を示さなければならないが、その期限はいつ頃か。

(市)

遅くとも12月20日頃までには決めないと間に合わないと考えている。この委員会の中から代表者としてどなたか選出していただき、その方に組織の先頭に立っていただいて、既存の活動団体からの協力も得ながら運営し、その組織に対して松本市は支援していくという形を考えている。

(三木委員長)

市役所としては来週中くらいに何かおぼろげながら形が見えた方が安心できるというスケジュール感である。これまで推進体制については少し議論してきたものの、例えば代表はこの人にして、松本市内にいるこういう人を仲間に入れようといったように、具体的な人選の話はしてこなかった。ただ、スケジュール的に決めなければいけない。何かご質問等はあるか。

(渡辺委員)

メンバーは何人ぐらいを想定しているか。

(三木委員長)

松本市としてははっきりさせておきたいのはたぶん代表の人選だと思う。代表がはっきりしていれば、メンバーは何人でも構わないのではないだろうか。

(渡辺委員)

イメージができていなくて申し訳ないのだが、例えば3年間動いてきたこの運営委員会のよ

うに、毎月市役所に集まって会議をするというのを来年度以降続けるというものではなくて、市役所の外に新しい団体ができるというイメージか。

(市)

そのとおりである。

(三木委員長)

この運営委員会は松本市が直接設置した組織であるため、我々委員だけではなく市の意向もふまえながら予算の使用用途を決めてきた。一方で、今回設置しようとしている組織は松本市の外側に設置するため、例えば、以前渡辺委員が提案されたグラレコをやりたいとなった場合に、運営委員会であれば市の方で承認されなければそれはできないということになるが、市の外に団体を作ってそこに対して市が支援するという形であれば、その組織の中でグラレコをやりたいということになれば、予算の範囲内でやることができ、自由度が高まるということになる。

(渡辺委員)

なるほど。それは例えば5年で100万円自由に使えるということなのか、それとも、1年で50万、1年で50万、1年で50万を何年か続けるということなのか、どういうイメージで捉えればよいか。

(市)

例えば、活動をするために事業計画のようなものを作成し、それに対してこれだけ掛かるのでこれだけの支援が必要だというような形で活動内容が明確になってくれば、予算的に確定した金額で要求ができると思う。まだ初年度で、どういう計画でどういうふうに進めていくかという青写真も全くない状況の中では、市の職員も組織に対して人的支援を行いながら、組織の取組み体制を構築していきたい。最終的にはその組織が独立して活動していく体制となり、まさにこのビジョンで皆様に作っていただいた森林と市民を近づけるための活動に取り組んでいくイメージになるかと思う。取組みを行った後の実績については、当然決算や会計処理を行うこととなる。

(三木委員長)

たぶん前回のイベントに参加していただいた子ども未来委員会も、そういう運営体制なのではないだろうか。詳しくは分からないが、何か特殊なやり方ではなく普通に他の組織でも取られているやり方だと思う。

(渡辺委員)

了解した。金額的には、例えば5万円ぐらいしか出ないのか10万円ぐらいになっているのかとか、おおよその金額が分からないと声を掛けづらいが、いかがか。

(市)

例えば寿さと山くらぶの鈴木さんは、子供たちの木育のための活動をずっとやられている。現在は寿さと山くらぶで独自に実施されているわけだが、そういった活動ができるように、今度は全体組織となるので、その組織から寿さと山くらぶなどの個別の組織へ予算が配分される形になる。全体組織がその組織に属する個別の団体や部会に対して予算を配分していくようなイメージになろうかと思う。具体的な金額を今はお示しできないため大変申し訳ないのだが、そのような形で活動ができるようにしていきたい。初年度であるため、主だった具体的な活動ができないということも想定される。その場合はしっかりとした組織を作っていくため、規約を作っていくだけでも1年掛かるようであれば、メンバーが会議に出てきていただいて、規約を作るための人件費などに配分するというような形も考えられる。

(三木委員長)

初年度から予算が多く付くことは難しいだろう。初年度は組織立ち上げのため、限られた予算内で進めるしかないかもしれない。その中で実績を作っていくって予算拡大していくというイメージかと思う。

(渡辺委員)

了解した。団体は任意団体ではなく、社団法人とか合同会社とか、何か組織として登記が必要ということか。

(三木委員長)

登記は必要なく、権利能力なき社団で良いと思う。

(渡辺委員)

団体を作って、収支と年次計画はきちんと行うという感じか。

(三木委員長)

毎年度きちんと総会や決算を行って、監査役も置いてといったような普通の団体としての振る舞いはしなければならない。

(環境アセスメントセンター)

組織の位置付けについては、ビジョンの7章の58～59ページに模式的な図で示してある。

「松本市森林再生市民会議」が今後市民主体で運営がされていく組織として市から独立し、松本市と「連携会議」の場で協議する場を持ちながら進めていくというような形になるかと思われる。

(三木委員長)

色々な市で同様の組織を作って活動されていると思われるが、松本市は人口が多いので、組織もそれなりの規模にはなるかと思われる。以上で予定していた議題が全て終了した。先ほ

ども申し上げたとおり、ビジョンの本編について、土日の中で検討していただいて月曜日にはきちんとメールで送っていただきたい。ひょっとするとコラムの執筆も急いでお願いすることもあるかもしれない。

(小山委員)

最後のイベントはビジョンの策定報告が終わらないとできない気がしている。ビジョン策定が終わった段階でオープンにしないというのは話がおかしくなる。この部分をどうするのか、まだ今日決めなくてもいいと思うが、検討の余地がある。

(三木委員長)

私はやらなくても良いと思う。年度末になりすぎて時間の余裕がない。

(小山委員)

そうであれば、12回目のイベントはなしにしてしまうということになるか。どのみち市長に渡すのが4月になりそうだということになってくると、それが終わる前にオープンするわけにはいかないだろう。

(三木委員長)

それでよろしいかと思う。それでは議事を事務局に戻すこととする。

(市)

予算の締めが3月となるため、残り1回予定していたイベントは実施せず、予算減額の形で処理させていただく。ビジョンについては、今回の運営委員会と土日の委員の皆様からの意見を反映させた形で修正させていただく。時間がなく申し訳ないが、ご協力をお願いしたい。長時間にわたっての協議にお礼申し上げます。これをもって第5回の運営委員会を閉じさせていただく。